2022年　愛知県農業総合試験場の10大成果

真夏の鉢花クルクマを暖房費ゼロで早期出荷！

－６月出荷できる「低コスト球根出芽法」を開発－

開発の背景・ニーズ

県育成品種クルクマ「アイルージュ」の鉢花は通常8月から9月の出荷となりますが、近年は旺盛な需要から６～７月出荷を望む市場が増加しています。これに対応するには、生育を早めるために1月から栽培施設を20°C以上、培地を25°Cに加温する必要があります。しかし、生産コストの増加を危惧する生産者が多く、市場の要望に対応できていませんでした。そこで、燃料コストを軽減しながら最需要期での出荷を可能とする省エネ生産技術の開発に取り組みました。

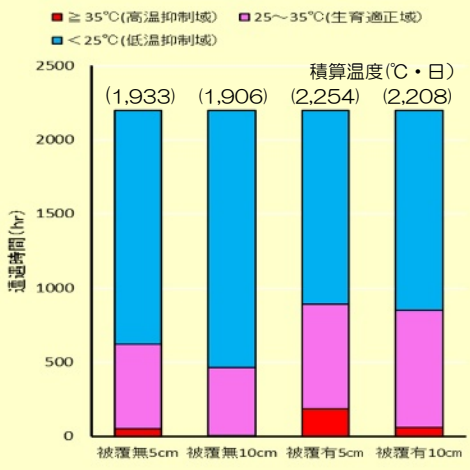
成 果 の 内 容

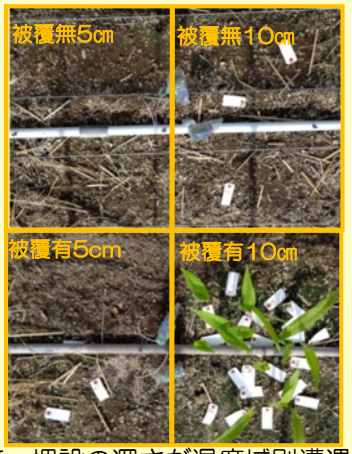
球根を地熱利用により出芽させ、出芽後に鉢へ定植する「低コスト球根出芽法」を開発しました。

①クルクマの生育は地温の影響を強く受け、25～35°Cが適温であることを明らかにしました。

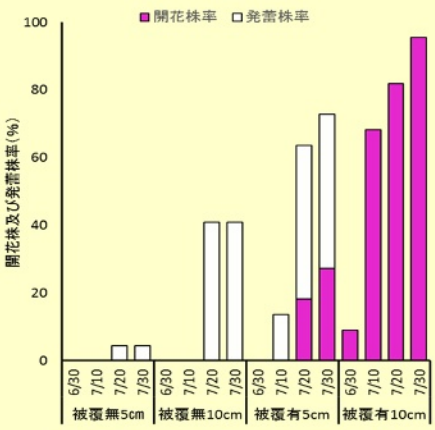
②球根を無加温ハウスの床面から10cmの深さに埋設しビニル被覆を行うと、適温に長時間遭遇するため出芽が早くなりました。出芽した球根は直ちに掘り上げず、出蕾した後に鉢へ定植すると６月下旬から開花しました。

③早期出荷のために従来必要とされた加温が不要となり、暖房コスト及び培地加温コストがゼロになりました。





無加温ハウスでのビニル被覆の有無、埋設の深さが温度域別遭遇時間・出芽に及ぼす影響(写真の荷札は出芽場所を意味する)



無加温ハウスでの出芽方法が鉢上げ後の生育・開花に及ぼす影響
(鉢上げ：5月1日)

愛知県農業への貢献

6～10月は、出荷できる鉢花品目が少ないことから、花き生産者にとって収入が極めて少ない期間です。この省エネ生産技術は、すでに海部地域で活用され普及が始まっています。夏の暑さに強い熱帯原産のクルクマを低コストで計画的に6月から出荷できるので、出荷物の少ない夏季にも収入を確保し、経営安定に貢献しています。

【本研究は、農林水産省持続的生産強化対策事業のうち「生産体制・技術確立支援」で実施した成果です。】

園　芸　研　究　部